

シリーズ景観 84

青柴垣神事

「みんなで残したい松江の景観400選集」から
景観審議会が特にお薦めする景観

No. 118

市は「住むひとが誇りと愛着を感じ、訪ねるひとの心に残る松江の景観づくり」を推進しています。



「みんなで残したい松江の景観400選集」は、
市ホームページでご覧いただけます。

【問い合わせ】
まちづくり文化財課 ☎55-5387

松江の景観400選

検索

「青柴垣神事は美保神社で毎年4月7日に行われる神事です。神がかりした当屋たちを青柴垣を飾った2隻の船に乗せ、その後ろに笛、太鼓を奏する神楽船を従え美保関港内を巡ったのち、美保神社に御幣を奉納します。これらの祭りの景色は、「神々の出雲」を代表する景色を創りだしています。」と推薦いただきました。

青柴垣神事は、「国譲り」の神話に倣って行われる神事です。美保神社の御祭神である事代主神（えびす様）が、父である大國主神（だいくく様）から「国譲りの相談を受け、天照大神に譲ることを進言した後、海の中に青い柴垣を作って身を隠した」という神話を儀式化し、神の再生を祈る祭です。神事で当屋と言えば、一般的にお世話をする人のことをいいますが、青柴垣神事の当屋は、1年間の潔斎があり、「厳しい潔斎を勤め身も心も清められた身体を依り代として神様が降りてこられる」といわれています。国譲り神話と重ね合わせながら、ロマンあふれる出雲神話の世界に思いを馳せてみてはいかがでしょうかでしょう。